

人間の魂が 人間をつくる

人間は人間の魂の力に
依らなければ
つくれるものではないと
私は信じてゐる

平生鈺三郎述『私は斯う思ふ』岩井尊人編（千倉書房、一九三六年）

教育で日本を変えようと志した平生鈺三郎が
理想と掲げた教育は、いかに継承されているのか。

平生鈺三郎にとって、甲南学園の創立は日本の教育を変革するための挑戦でもありました。教育事業に乗り出した大正から昭和初期は、日本を含め国際情勢が激動の時代。そのようななかで、日本の先行きを問いつつ平生は、教育によって日本を変えようという答えを見いだしたのです。「現代の教育の如き知育偏重は真の教育にあらず、真の教育とは真人間を造るに在り、正しき道に依りて自ら働き自ら活るる人を造ること」と考え、知識の詰め込みでなく人間と人間が直に接し、若者を国のため、社会のため、人々のために働くことのできる立派な社会人に育てていくことの大切さを主張し続けました。生前、生徒にまじり意見を交わす平生の姿がよく見られたといえます。それは、生徒たちとのふれあいを通して自らが手本となるように心がけていたからでしょう。本日5月22日は平生の生誕より百五十年を迎える日です。甲南学園は、人と人、魂と魂で向き合う教育を受け継いでまいります。

高い志を育む教育は、
平生の意志を継承しつつ時代に応じて進化。

1919（大正8）年、甲南中学校として開学し七年制高等学校を経て現在に至る甲南高等学校・中学校。建学の理念に則り、一人ひとりの人間性・才能・創造性を伸長させることに加え、世界に視野を広げ「国際社会で生きぬく力」の養成に、一層注力しています。語学力はもとより、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決能力、そして母国語・外国語によるコミュニケーション能力といった実践的な応用能力を身につけ、主体的に判断し行動することができる人材の育成をめざします。21世紀の教育に求められる国際基準に則した教育内容は、甲南学園が設立当時よりめざしたもので、平生が志した教育にほかなりません。



学園創立90～100周年記念として甲南高等学校・中学校に設けられた甲友会館（ル・カスク）。



旧制甲南高校に平生が設置した食堂では、教員が生徒の間に座り、会話をしつつ昼食をとった（1938年頃の食堂）。

ひらおはちきぶろう
平生鈺三郎 甲南学園創立者 1866（慶応2）年～1945（昭和20）年
損害保険業界の近代化や川崎造船所の再建を担った実業家であるほか、灘購買組合（現：コープこうべ）の結成に尽力した社会事業家として、また、文部大臣を務めるなど政界でも活躍するが、教育実業家・教育者であることを天職とし甲南学園を創立。2016年は、平生の生誕150周年にあたる。

開催

平生鈺三郎生誕150周年記念シンポジウム
—おもしろく、ありがたく—
6月11日（土） 開場／13:30 開会／14:30
主催：学校法人甲南学園 共催：甲南学園同窓会
会場：甲友会館（甲南大学岡本キャンパス）

詳しくは、本学ホームページ（<http://www.konan-u.ac.jp>）をご覧ください

